

研修テーマ	地球温暖化は誰のせい？ 生物多様性と生態系、SDGsについて	参加者	埼玉支部 18名 他県支部 39名
講師	法政大学生命科学部 国立開発法人量子科学 技術研究開発機構 樹木医・博士（農学）吉原 利一 氏	場所	Withyou さいたま セミナー室2
資料	「地球温暖化は誰のせい？」 「生物多様性と生態系、SDGs」P-point 資料	記録	三島 摩耶
目的	地球温暖化による気候変動によって、現在では陸上や海、生態系に大きな影響が懸念されている。ここでは、地球温暖化のメカニズム及びその影響と対策、更にSDGsに掲げられる生物多様性やその価値の持続的な利用について学び、今後の活動につなげることを目的とする。		

■研修内容

（第1部）地球温暖化のメカニズムを知って対策を考える

そもそも「環境とは」から始まり、地球誕生以来の歴史、大気の変化、現在地球史上最大の環境問題となっている地球温暖化のメカニズムなどについての解説。また、地球温暖化で何が起こるのかということ、気象の変動・気象災害、生態系の混乱・攪乱、樹木への影響などについての解説。温暖化対策として国際的に取り組んでいること、我々にできる緩和策と対応策として、森林・都市の緑化などの土地利用が重要であること、未来の育種技術の開発などについての解説。



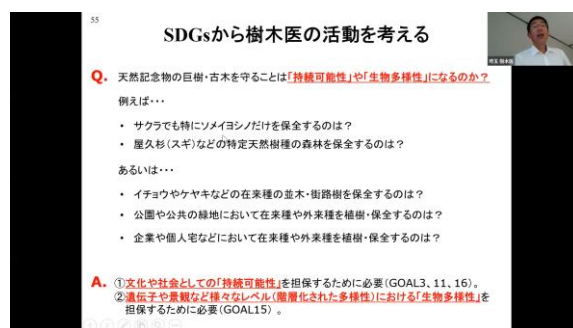
講師：吉原氏

（第2部）多様性を守る価値とは何か、種の進化と絶滅

各々の環境に適応した多様な生物間の相互関係が「生態系」である。ということから始まり、生態系は種の多様性が多い方がよい、「種」とは何か、地球上に存在している種の数、生物間の相互関係、生態系の生産性・生産量（NPP）、NPPと生物多様性、多様性のはじまりと終わり、淘汰と進化、種の絶滅などについての解説。生物多様性を守る価値とそれを評価する様々な手法、SDGsとは、SDGsと樹木医の活動について、事例を交え解説。



会場参加者講義風景



講義画面